



活版印刷 Ladybird Press

本町二丁目の古民家を改装し事務所兼アトリエを構える「Ladybird Press (レディバード・プレス)」は、活版印刷による名刺やポストカード、メッセージカードなどの制作を手掛ける。活版印刷は凸版印刷の一種で、鋳造された活字を専用の印刷機でプレスすることで紙にインクを転写する印刷技法。15世紀にドイツのグーテンベルグが発明したとされ、この技法を用いた「聖書」が広く世の中に行き渡ったことで、民衆の識字率が飛躍的に向上し文明社会の発展に貢献した技術でもある。時代が流れ急速な電子化や出版事情の変化などに伴い一時ほぼ絶滅したとされていたが、その仕上がりの美しさや懐かしさ、素朴さ、格調高さが、今日再評価され、各地でワークショップが開催されるなど注目を集めている。

Ladybird Pressの活版印刷はオリジナルのデザインはもちろんのこと、実物の織物図案から抽出した日本伝統のデザインを多く採用しており、繊維産業と活版印刷の融合という、他にはない桐生ならではのオリジナリティを見せる。また、高精細なデザインにも対応し、約0.1mmの細かさまで再現可能なほか、10色の基本インクから配合される発色抜群のカラーインクがカードを鮮やかに彩る。

代表の杉戸岳さんは東京のデザイン会社を経て桐生にUターン後、2016年に起業。2018年1月に重要伝統的建造物群保存地区内に事務所をオープンし、桐生を象徴する歴史エリアを盛り上げている。活版印刷に魅せられた杉戸さんは1950年製のクラシック印刷機を購入、ほぼ独学で技法を学び生業とするまでその技を磨いてきた。季節や天候、気温、湿度によって、インクの粘度やローラーのサイズまでも変化するという超繊細な印刷機と日々格闘しながら、手仕事でしか届けられない温もりをプレスに込めている。

テントウムシを意味する“Ladybird”は太陽や幸運の象徴で、名刺やカードを通じて手元に幸せを届けたいという想いから社名とした。プレスによって生まれる溝にインクが染まり文字や図柄が浮かぶ活版印刷は、そのクラシックで優しい立体感が送り手のまごころを間違いなく伝えてくれる。

●住所／桐生市本町2-5-12

●HP／<http://www.ladybirdpress.com/>

●電話・FAX／0277-51-3748

●E-mail／mail@ladybirdpress.com



再評価される印刷技術
織物の伝統図柄でまごころを届ける